



巻 頭 言

## 創造性豊かな人材の育成



畑 田 耕 一\*

科学技術の進展には、大学の理工系分野での創造性豊かな人材育成が必要である。独創性、創造性豊かな人材は、広く深い知的背景を基盤とした個性重視教育から生み出される。“広く深く学び然るのち自発的に考える”これが創造性を養う基本である。

自己の知的背景に基づいて独自の考え方や概念をつくり出す能力を養わせる教育は、大学院博士課程に於ける研究を通して行うのが最適である。修士課程の期間に、研究を通して考える能力を養わせる教育と授業により知的背景を充実させる教育とを共に完全に行うことは、科学技術の進歩の早い現在では不可能に近い。博士課程の定員増とその学生の個別的な研究指導の充実が科学技術の進歩に必要な人材育成に不可欠な時代になっている。

現在の博士課程卒業者が産業界であまり役に立たないという声が聞かれることがある。これまでの大学の研究室では、修士課程の学生が研究の中心をなしてきたため、博士課程に進学した学生でも、十分な知的背景を形成する余裕を持たぬまま特定のテーマについての研究活動に専念することを強いられ、その結果、独創力、創造性に欠ける博士を世に送り出すことが時としてあったのかもしれない。広い知的背景と理解力・思考力を備えた博士は、豊かな創造力を発揮しうる研究者、教育者となり得る筈であり、創造的な発明・発見とそれによる自己技術の開発が益々重要となるこれからの日本の企業に不可欠である。このことを、大学人が企業に訴え理解して貰うことが必要である。それにより企業の博士に対する待遇も自ずと向上し、学生の博士課程への進学意欲も高まるものと思われる。

大学院学生が心安んじて勉学・研究に専念するには社会の経済的支援も必要である。その方策として、多様な奨学金制度やTA、RA制度の充実と適切な運用を考えねばならない。大学あるいは学部独自に受給者を決められる奨学金制度とそのため財源の確保も必要であろう。

独創性、創造性の高い基礎研究を行うのに、国を越えた個人的な人間関係が役立つ場合が多い。国際性の涵養は、柔軟性に豊み、文化、歴史、生活体験などをあまり意識せず人と付き合うことの出来る若いうちに行うのが望ましい。そのために、国際学会での発表も含めた学生の海外派遣、外国人教官・学生の積極的招へいとそのため宿舎の整備を行う必要がある。これらを種々の面から援助するとともに国際協力事業の拠点ともなる機関たとえば国公立大学事務所を諸外国に開設してはどうであろうか。

独創性の高い基礎研究は、個人の知的好奇心に端を発するものであり、「何の役に立つかわからないもの、それこそが基礎研究だ。」という側面を持っている。一見無用に見える研究を行う科学者、技術者を温かく見守るとともに、研究の真価を理解できる高い識見を持った市民社会を育てることもまた大学の重要な使命の一つである。筆者の勤務する基礎工学部でも、この目的を達成するために、企業人のリフレッシュ教育のみならず、一般市民の生涯教育や市民生活のいろいろな局面での問題解決への協力なども含めた積極的な機能拡張を目指して懸命の努力を続けている。

創造的人材と独創的研究は、科学技術への大きな夢と鋭い鑑識眼に満ちあふれた市民社会に支えられている垣根のない開かれた大学での自由な環境から生み出される。このような大学づくり、大学改革は市民一人一人の理解なしには達成し得ないものである。会員諸氏のご支援、ご鞭撻をお願いする次第である。

\* Koichi HATADA  
1934年12月15日生  
昭和32年大阪大学理学部化学科卒業  
現在、大阪大学基礎工学部、合成化学科、合成高分子化学講座、教授、基礎工学部長、理学博士、高分子化学 TEL 06-850-6230